

笠替え 芭蕉もスッキリ 鹿沼で恒例行事

【鹿沼】俳聖松尾芭蕉の「笠塚伝説」にちなんだ恒例イベント「芭蕉の笠替え」が17日、まちの駅新・鹿沼宿で開かれた。市民ら約80人が見守る中、松井正一市長らが木製の芭蕉像の笠を新調した。

同駅の芭蕉像は市内産の杉の木を使ったチェーンソーアートで、2011年に設置された。笠替えイベントは12年から毎年、鹿沼地区木材需要拡大協議会が「木のまち鹿沼」をアピールしようと開いている。

市によると、芭蕉は「奥の細道」の道中、西鹿沼町の光太寺で笠とわらじを新調して日光に向かったとされ、後に芭蕉の死を伝え聞いた寺が笠塚をつくってしのんだと伝わる。

同協議会の樽見正衛会長

(80)は「笠替えが鹿沼の伝統行事となるよう今後も続けていきたい」とあいさつ。松井市長は「こうした鹿沼の魅

力をますます発信していけるよう、市も全力を挙げて協力する」と述べた。

一行はこの後、寺に古い笠を納め、屋台のまち中央公園にある芭蕉像をタオルで拭く「お身ぬぐい」を行った。(柴田正人)



芭蕉像をタオルで「お身ぬぐい」する参加者



316

【言葉の意味】

■わらじ…わらで編んだくつ。昔の人がはいて歩いたり、田んぼで作業したりするときに使った

■笠…昔の人が、雨や白ざしから頭を守るためにかぶった、わらや竹で作った帽子

【言葉の意味】

■早乙女…田植えをする若い女の人のこと

■代かき…田植えの前に、田んぼの土を水とまぜてやわらかくする作業

■かすり…白い点や線のような模様が入った、昔ながらの布や着物の柄

小学校高学年向け 年 組

昔の農村風景再現

【那須】農耕馬と早乙女による昔ながらの農村風景を再現する「田植え祭」が7日、俳聖松尾芭蕉らが句を残したことで知られる芦野の国名勝「遊行柳」隣の水田で開かれ、多くの見物客でにぎわった。

同地区をPRしようと芦野の里づくり委員会が毎年この時季に実施している。

福島県飯館村の細川牧場で飼育される農耕馬が水田に入り、土の塊を砕く農具「馬鍬」を引きながら豪快に代かきを行った。その後、かすりの着物

を着た早乙女姿の地域住民ら20人が手作業で丁寧に苗を植えていった。

花嫁行列も行われ、馬に乗った白無垢の花嫁らが農道を練り歩いた。周辺には多くの見物客が集まり、昔ながらの伝統的な風景をカメラに収めていた。

同委員会の加藤雄二会長(73)は「馬の姿に多くのお客さんに喜んでもらえたと思う。今後も歴史を感じる行事を続けていきたい」と話していた。(佐藤洋)

那須・芦野で田植え祭



代かきを行う農耕馬

2026年6月8日付・下野新聞21面

設問

【1】5月19日付の記事と6月8日付の記事を比べてまとめた表の空欄に入る言葉を、記事から見つけて書きましょう。

【2】二つの記事を比べて気付いたことを三つ書きましょう。

【3】記事の中から「笠」のつく言葉を二つ、「馬」のつく言葉を二つ見つけて書きましょう。

【発展課題】自分が好きなことについて書かれた記事を集め、比べ読みをしてみましょう。

	5月19日付の記事	6月8日付の記事
いつ	5月(①)日	6月(②)日
どこで	まちの駅(③) (④)寺 (⑤)のまち中央公園	俳聖(⑥)らが句を残したことで知られる芦野の国名勝「遊行柳」隣の(⑦)
何を	○芭蕉の笠替え 木製の芭蕉像の(⑧)を新調し、古い(⑧)を寺に納め、芭蕉像をタオルで拭く(⑨)も行われた。	○田植え祭 (⑩)と(⑪)による昔ながらの農村風景を再現し、白無垢の花嫁が農道を練り歩く(⑫)も行われた。